

岳沢 コブ尾根 山行報告

(山城) 北アルプス南部

(コース) 岳沢 コブ尾根

(日時) 2018年3月27日(火)～29日(木)

(天候) 晴れ

(参加者) 松原、前田

(山行タイム)

3月27日(火)

3:20 千葉出発→8:00 坂巻温泉→8:20 釜トンネル→10:00 上高地→14:00 岳沢小屋→15:00 テント設営完了→コブ沢取付き確認・雪質確認など→17:00 幕場→就寝

3月28日(水)

5:30 起床→8:00 コブ沢取付き雪質確認→9:00 ビーコン練習→10:45 大滝見学→12:30 ロープワーク練習→14:30 幕場→就寝

3月29日(木)

2:00 起床→3:15 幕場出発→3:30 コブ沢取付き→5:00 マイナーピーク→7:00 コブ取付き→11:30 コブの頭→13:30 天狗のコル→14:30 幕場→17:00 上高地→19:00 坂巻温泉→帰葉

(山行報告)

昨年に興味をもった岳沢のコブ尾根、雪の時期に登りたいと思っていました。去年の夏に下見のつもりで奥穂の南稜と合わせてコブ尾根に登り、雪の時期が始まってからは八ヶ岳や谷川に通いました。厳冬期が終わり、残雪期が始まったばかりであろうこの時期に、コブ尾根を計画しました。本当に登れるのかどうか不安でしたが、何とか登る事が出来ました。

3月27日(火)

3:20 頃に前田さんと合流して出発。松本 IC を降りてからコンビニで買い物を済ませて上高地へ。釜トンネルの入り口に荷物を降ろしてから、車を坂巻温泉に駐車して空荷で釜トンに戻る。

8:20 頃に釜トンネルを出発。以前の釜トンネルは照明が無かったと思うが、現在は明かりがついていて、ヘッドライト無しでも歩きやすい。釜トンネルと上高地トンネルを抜けて、大正池ホテルを通過する。先々週に中千丈沢アイスで来た時よりも、舗装路の除雪が進んでいて歩きやすい。舗装路は上高地まで全て除雪されていた。10:00 頃に上高地の河童橋に到着。岳沢が良く見える。梓川の清流は相変わらずきれいだ。工事の音がやや気になるが、やっぱりいいところだ。橋の端で横になって少しだけ休んだ。



河童橋からの梓川と岳沢

10:20 岳沢へ向かう登山道に入る。ここからはあまり踏まれていないため、雪を頻繁に踏み抜くのでワカンジキを装着。しばらく樹林帯を歩くと広い沢に出る。視界が開けて岳沢や上高地の方も良く見える。この沢をつめ登るのだが、単調な登り・重たい荷物・照りつける太陽、疲れる。沢を半分くらい登ったところで荷物を置いて休憩していると、ドドーと雪崩の轟音。これが 12:50 頃。以後、何度も雪崩が発生していた。雪崩の主な場所は3か所、畳岩尾根の天狗沢側斜面・コブ沢の右支沢(登攀予定の沢)・大滝上部。最近の気温上昇で雪崩が起きやすくなっているようだ。特に今日の気温上昇が急激であり、今日から3日間は同じくらいの陽気のようである。雪崩を眺めながら岳沢をつめ登る。沢の雪面にシュプールがある。スキーヤーも岳沢に入っているんだな。

14:00 頃に岳沢小屋に到着。小屋の近くで雪崩の心配のなさそうな小屋の下部にテントを設営。テント設営が終わった頃に大滝の方からスキーヤー2人が滑降してくる。2人が小屋まで到着し、ハグした。あとで分かったが、扇沢を滑ってきたようだ。

15:00 過ぎにコブ沢の取付きへ出発。テントからコブ沢取付きまでは20分程度。コブ沢は末端近くまでデブリで埋まっている。さっきまで起こっていた雪崩だが今は止んでいる。沢の取付き付近で弱層テストを行ったり、急こう配の斜面を登ってみたりして雪の状態をチェックしてみて、明日のルートでの雪崩の可能性についてあれこれ悩んだが、結論は



大滝の雪崩



雪に埋まった岳沢小屋



コブ沢取付き



弱層テスト

登攀不可。急激な気温上昇で雪崩の危険は明日以降も大きいと判断した。仕方ないので明日は雪崩の観察をして帰ることに決める。

テントに戻ってとりあえずビールで乾杯。食事は二晩分を一晚で使えるので予定より豪勢だ。しばらく飲んで就寝。

3月28日(水)

5:30頃に起床。外に出るとコブの頭に朝日が当たっているのが見える。雪はしっかり締まっている。この状態で雪崩が起きるかどうか、よくわからない。朝食の後、昨日に雪の状態をチェックしたコブ沢取付きで現在の雪の状態を確認しに行く。雪崩る気がしない。コブ沢～マイナーピークを夜明け前に登れば雪崩はくらわないで済むだろう。

雪質チェックを終えて、ビーコン搜索の復習をすることに。コブ沢から少し下ったところの広い沢でビーコン練習。本日は一日中雲一つ無い快晴。日の光を遮るものは何もない。照りつける太陽と雪の照り返しで暑いし、露出した肌が日に焼ける。日焼けに敏感な前田さんは日除けの布を顔に巻き、日焼け対策万全だ、というか私が日焼けに無頓着すぎた。ビーコン練習を終えてテントに戻ってから、前田さんの真似をして私も顔にタオルを巻いてみたが手遅れで、すでに少しひりひり痛い。テントで休憩中に山行管理に計画の変更を連絡した。

休憩の後は大滝見学へ。大滝の方へ沢をつめて、できれば近くで雪崩を見たかったが、今日は大滝の雪崩は見られなかった。かわりにじゃないが、昨日のスキーヤーのシュプールを扇沢上に発見。すごいところを滑ってきたんだな、ハグに納得。

大滝見学の後にはロープワーク練習へ、いったんテントへ戻ってからコブ沢下部の広い沢へ向かう。コンテの滑落停止を練習する。コンテの確保は難しい。コンテでの滑落が許されないことを確認できた。

確保の練習を切り上げて14:30頃にテントに戻る。今日の活動はおしまい。ビールで乾杯してから、晩飯と明日の準備を始める。テントの中は熱気がこもって暑いけど、直射日光を避けられるので外よりはだいぶました。明日は早起きなので、19:00頃、早めに就寝。



今晚のおつまみ、この後はメインのキムチ鍋



コブ尾根を眺める



日焼け対策

3月29日(木)

2:00 起床、全然寒くないので雪が緩くないか不安に思う。3:15 出発、雪は締まっている。3:30 コブ沢取付きに到着、沢の左岸側を登り、そのまま右のルンゼへ入っていく。ルンゼの左側は一昨日に雪崩が流れていたところだ。ルンゼはだんだん傾斜が増していき恐ろしい。ルンゼの最終部分で前田さんはルンゼを忠実に詰めていくが、私は右側にある岩と灌木の露出部分を求めて登ってしまった。これが大間違いで、灌木から雪に乗り移るところで大変に恐ろしい思いをした。

何とか前田さんと合流して、少し登るとマイナーピーク。この先は懸垂の予定だが、下降先の状況を確認したくても、怖くて雪の端まで近づけない。とりあえずピークにスノーバーを刺して、それに掴まってどうしようか考える。ピークの少し後下方にハイマツが露出しておりここでセルフビレイ。ロープを1本結び、前田さんに確保してもらって先の状況を偵察に行くことにする。スノーバーに中間支点を取って雪の下をのぞき込むと、懸垂でないと降りることはできなそう。さらに下降した後の稜線も険しそう。下降するにしても支点は雪しかない。ルートの観察を終えて前田さんの元へ戻り相談する。懸垂下降の支点に使えるのはスノーボラート、練習はしていたが本番の懸垂下降で使う決心がなかなかつかない。あれこれ考えてもよい案が思いつかず、やっと覚悟を決めて、ピークにスノーボラートを作ることにした。夜が明けてだんだんと明るくなってくる。スノーボラートを竹ペグで補強してロープをセット、そーっと下降して稜線に到着できた。続いて前田さんが下降してきた。前田さんが言うにはスノーボラートは安定していて不安はなかったようだ。このあとの稜線はコンテで登っていく。コブまでの途中にもう一つ大きな急下降があったが、ここはスノーバーで確保しながらスタカットで降りた。



コブ沢を登る



スノーボラートで懸垂下降



二回目の下降

7:00 頃、コブの取付きに到着。ルートを眺めるとなんとなく見覚えがある。

1 ピッチ目

前田さんがリードを譲ってくれた、先月末の阿弥陀北西稜でじゃんけんに負けすぎた私へ気づかいのようだ、ありがとうございます。出だしのチムニーは出だしは簡単だが抜け口がいやらしい。夏に登った時は抜け口を右を登ったと思うが、今回は抜け口を左寄りに登った。上部はクラックを登り抜けてロープ半分(30m)でピッチを切る。

前田さんがフォロー中に、すぐ隣の扇沢沿いにシェププルを発見。一昨日のスキヤーの残したもののだろう。

2 ピッチ目

前田さんリード。途中でコールが届かなくなってしまい困ったが、岩の裏に移動したら改善されてほっとした。前田さんからコールがあり私も登っていく。出だしは岩の露出した岩稜帯、後半は雪のナイフリッジとなる。ナイフリッジの左側をトラバースしていくと、一か所、小さなルンゼ状の足元が切れ落ちた部分があった。前田さんも恐ろしかったのだろう、ここの前後にランナーを多数とってある。雪はだいぶ緩んでおり信用できない、リッジの向こう側に移ろうかとも思ったが、向こう側の雪は全く締まっていないので乗れそうにない、リッジに馬乗りしようかとも思ったが、どう崩れるかわからないので不可。悩んで雪を探っていると岩が出てきた、しかしホールドにはならなそう。あれこれ悩んだ末、掘り出した岩にアイゼンで乗り、手は雪に刺したバイルを信じて通過した。やっとのことで前田さんと合流。ここでコブのクライミングは終了。

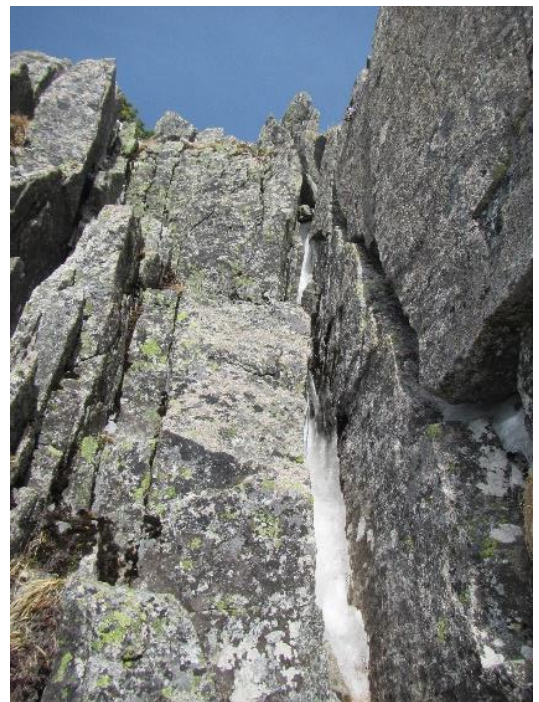
終了点には残置のスリングが露出していた。コブから懸垂で稜線に降りる。下降点の傾斜が緩く少し休憩、ここで9:00 頃。前田さんはセブンのパンを半分、私は朝飯の余りのご飯を食した。

この先は難しいようなところはなかったはず、と登り始めるが、その後すぐに出てきた岩稜で四苦八苦。ルーファイミスでした。コブでちゃんとルートを観察しておけばよかった。

時間をロスして太陽は高くなり気温も上がる、雪



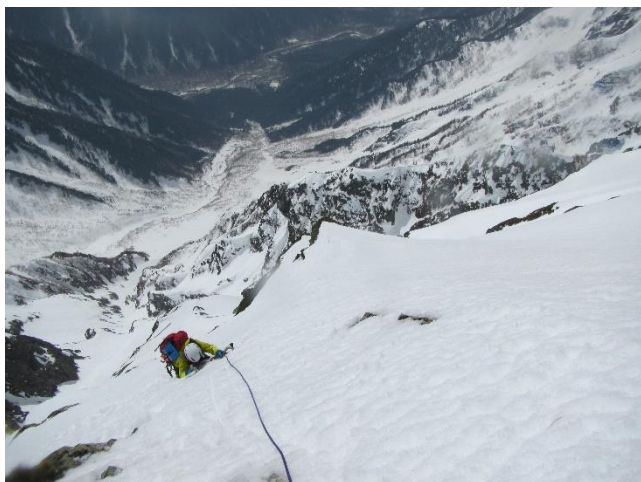
コブまでもう少し



コブ取付き



コブの終了点、ここから懸垂下降



コブ～コブの頭の登り

はぐしゃぐしゃになっていく、岩や灌木が露出した付近は雪が緩んで足を踏み抜きやすい、なるべく雪の締まった部分を探して登るが、アイゼンにはだんごができて煩わしい。苦勞しながら稜線を登っていくと、ついに間近にコブの頭が見えた。ものすごくうれしい。もう少し、頑張って登って、11:30 コブの頭に到着。前田さんとがっちり握手。

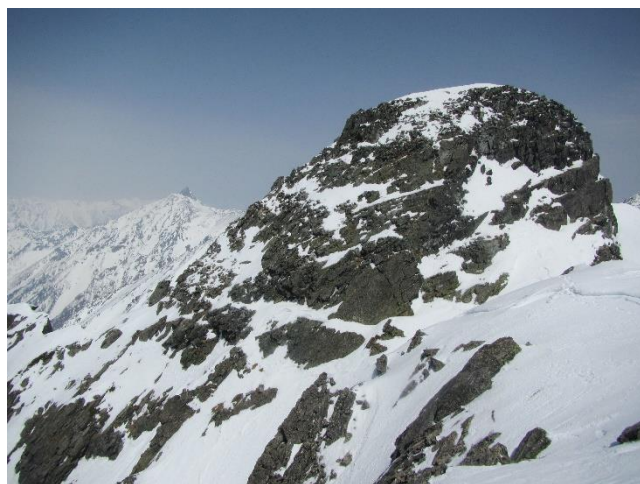
しばらく休みたいが、時間はおしているし、稜線は風が強くて寒い。ちょっと休んでから稜線を西穂方面へ向かう。稜線上には踏み跡がある。たぶん本日に歩いた跡だ。踏み跡をたどって天狗のコルまで一時間半。踏み跡があつて助かった、無ければもっと時間がかかっただろう。

天狗沢の下りはシリセード。広大な滑り台だ。出だしはうまく滑れないが中間部はすいすい滑れる。下半のデブリ帯もルートを探してなるべく滑る。最後の方は傾斜が緩んでしまい、歩いてテント場へ向かう。

14:30 テントに到着。テントをたたみ、荷物を整理して、15:45 上高地に向けて出発。雨がパラパラ降り始めて不安になったが、大した降りではなく濡れるようなことはなかった。岳沢の下りではしばしば雪を踏み抜き苦勞する。樹林帯に入ってもしばしば踏み抜く。上高地には17:00 到着した。ここまですくれば危険箇所はないので山行管理に下山連絡。釜トンネルの出口には18:30 に到着した。ここに荷物を置いて空荷で坂巻温泉まで、前田さんが行ってくれた、ありがとうございます。私は荷物の見張り。19:00 頃に前田さんが車で戻ってきた。荷物を積み込み出発。坂巻温泉のお風呂に入っていたかったが、残念ながら16時で営業終了していた。代わりに諏訪湖 SA のお風呂で入浴して帰った。千葉に着いたのは24:00 過ぎ。どうもお疲れ様でした。



コブの頭で記念撮影



コブの頭から、槍とジャンダルム